



〔問①〕「カーボンニュートラル」について、説明してください。

〔問②〕電気自動車（EV）の転換を進めるだけでは、脱炭素化の目標達成が難しい理由は何ですか。

〔問③〕自動車メーカー「マツダ」が作ったロータリーエンジンの独自の構造は何ですか。

〔問④〕ロータリーエンジンの利点を挙げてください。

〔問⑤〕環境問題と向き合いながら、車社会はどうあるべきと考えますか。自分の意見を述べてください。

日本文理大工学部  
機械電気工学科教授

清水良さん(61)



国内外の自動車メーカーは、温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」の実現に向けて電気自動車（EV）の開発でしごきを削っている。ただ、電力エネルギーも温室効果ガスを多く出す火力発電に依存している。EVへの転換を進めるだけでは、脱炭素化の目標達成は難しい。

一般的にEVは、自動車メーカーのマツダ（広島県府中町）での技術者時代に携わった「ロータリーエンジン」にあると考えている。一般的にEVは、自動車メーカーのマツダ（広島県府中町）での技術者時代に携わった「ロータリーエンジン」にあると考えている。一般的にEVは、自動車メーカーのマツダ（広島県府中町）での技術者時代に携わった「ロータリーエンジン」にあると考えている。

の負荷が少ない燃料に対応できる新しいエンジンづくりを探索する。ヒントは、自動車メーカーのマツダ（広島県府中町）での技術者時代に携わった「ロータリーエンジン」にあると考えている。

## 環境負荷少ないエンジンを

研究を進めていきたい」と語る。◆◆◆「小さな頃から車が大好きで、学生時代はエンジン研究に熱中した。卒業後はマツダに入社。最初はエンジンの性能を確かめる部門に在籍し、テストコースで車を走らせていた。その後、人気を博したスポーツカー「RX-8」の開発に参画。搭載されているロータリーエンジンを効率よく動かすための電子制御システムを構築した。



「世界に通用する技術者を育てたい」。自動車のエンジンを研究する清水良教授。大分市の日本文理大。

## ヒントは「ロータリー」に

◆◆◆「私ほどいろいろな部門を動いた人間はいないのではないか。いろいろな経験をさせてもらった」と笑った。◆◆◆「車をコントロールする電子制御技術を開発させることで、福祉面での機能強化も可能になるという。車から降りると自動で車椅子が出てきて移動できる！。そんな仕組みを思い描く。」「介助者がいなくても自由に出かけられる。誰もが思い思いに車を乗しめめる社会を実現したい」と力を込めた。

◆◆◆「私ほどいろいろな部門を動いた人間はいないのではないか。いろいろな経験をさせてもらった」と笑った。◆◆◆「車をコントロールする電子制御技術を開発させることで、福祉面での機能強化も可能になるという。車から降りると自動で車椅子が出てきて移動できる！。そんな仕組みを思い描く。」「介助者がいなくても自由に出かけられる。誰もが思い思いに車を乗しめめる社会を実現したい」と力を込めた。

（佐藤章史）  
＝随時掲載＝

大分合同新聞 2023年12月3日（日）朝刊 1面